

道博協ニュース 第138号 (2026年3月31日発行)

令和7年度北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修会

令和7年度ミュージアム・マネジメント研修会は「エコミュージアム活動から考える地域住民の Well-being」をテーマに、名寄市を会場として、令和7(2025)年10月8日(水)・9日(木)にかけ開催されました。

東海大学准教授 江水是仁氏による基調講演では、エコミュージアムの定義や背景、その活動が目指す方向性やもたらす効果について解説いただきました。そして、氏に関わる神奈川県平塚市金目地区での「金目エコミュージアム」の事例を通して、活動を通じた地域住民の行動や意識の変容の分析を紹介いただきました。

続いて行われた事例報告では、道北地域で「エコミュージアム」を冠する2館の取り組みが紹介されました。

「中川町エコミュージアムセンター エコールなかがわ」を率いてきた中川町教育長 疋田吉織氏からは、エコミュージアム活動を核に、自己実現、シビックプライドの醸成、産業創造につながった地域住民の行動変容、地域外からの関係人口の創出などの実践例が語られました。

音威子府村の「エコミュージアムおさしまセンター」名誉館長 河上實氏、地域おこし協力隊 光森 恵理子氏からは、美術館に関わる人に愛され、魅力が深まっていった実例と、拠点としての力を生かした地域内外の人を巻き込む地域愛あふれる創造的交流の場への展望をお話いただきました。また、両館ともに、北海道の多くの自治体が抱える過疎化や高齢化による課題につい

ても提示されました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、江水氏から、無形の遺産である「記憶」をどうつないでいくかが重要との話の後、河上氏から、設立の原点である砂澤ビッキと音威子府村の出会いや時代とともに変わっていく風景と変わらぬ風景について語られ、地域の「記憶」に耳を傾ける機会となりました。

施設見学では、名寄市及びなよろ市天文台、北国博物館の御協力のもと、地域の魅力を生かした展示や取り組みを紹介いただきました。各見学先では、活発な意見交換や交流も行われ、それぞれ、多くの気づきがあったことと思います。



なよろ市天文台にて、月や惑星を望遠鏡で観察

[道北地区博物館等連絡協議会事務局]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

ニッカウキスキー余市蒸溜所施設 の重要文化財指定にかかる博物館 の取り組みと思い出

ニッカウキスキー余市蒸溜所は、創業者である竹

鶴政孝氏が地域に根差した方だったこともあり、町民から「ニッカさん」とよばれ、大切にされてきた場所です。そんなニッカさんが令和4年2月9日に重要文化財指定を受けたことに伴い、当博物館でもお祝い事業を行うことになりました。

指定直後に行ったのが、お祝いポスターの掲示です。当時の館長から「一目でニッカのお祝い事だとわかる目立つポスター」というオーダーを受け、このような(写真)ポスターが完成しました。このと

き、ポスターの掲示を急遽決めたため、急ぎでポスターを作成し、学芸員全員で町内にポスターを配り歩いたのは良い思い出です。特にニッカウキスキー余市蒸溜所がある駅前商店街の多くのお店では、「ニッカさんが国のえらい文化財になったんだね！めでたい！」と、手渡してすぐにポスターをショーウィンドウに貼り付けてくれました。作成当初は、春までの掲示という程度で考えていたのですが、個人でラミネート加工をして最近まで掲示してくれていたお店もありました。

博物館内では、トピック展示を行いました。こちらでは、ニッカウキスキーに関する古写真や当館が所蔵している関連資料、指定された建物の解説などを展示しました。建物が指定を受けたのだから立体模型が欲しい！という学芸員の発案で、手先の器用な当館職員が図面から起こしたお手製のペーパーニッカ正門（事務所棟）を作成してくれました。こちらが来館者にとっても人気で、今でも大切に展示中です。

重要文化財指定後も、保存活用計画の策定から町内小学校のニッカ関係授業まで、様々な面で町の博物館として関わり続けています。今後も、個人所有の文化財でありながら町の大切な文化財のひとつとして共に守っていきたいです。



町内に掲示した重要文化財指定を祝うポスター

[余市水産博物館 学芸員 中塚 風沙]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

展示をつくるということ

七飯町峠下地区にある聖山遺跡。考古学を専門とする人なら、「ああ、縄文時代晩期の遺跡だね」となるだろう。すでに発掘が終わって50年余りも経過した遺跡なのだが、接合や復元に時間を割くことの出来なかった遺物たちも多く、当然のごとく、それらは、あまり展示されることはない。「それでは、もったいない」と考え、忙殺する業務の合間に、土器の接合、石膏入れ、着色作業を地道に続けて数年ほど、新たに展示できる状態に仕上げたのが、特別展「聖山—seizan—」である。いうなれば、正真正銘の考古学分野の展示で、いわば土器祭りともいえる。

それでも、本展示で留意したのは、①あくまで一般向け。②視覚的に楽しく。③それでいて学びがある。の3点で、これらを具現化するために、なるべく専門用語を減らし、使う場合には仮名をふって説明を加えた。要は「どう？こんな難しい事知っているんだよ！」みたいなお披露目会的な展示では、観覧者に何も伝わらないと考えるからだ。配置についても、「考古はこう展示すべきだ！」というような、

石器の種類ごとに方向をそろえたり、土器をきっちり編年順にしたりといった手法はあまり用いなかった。助かったのは、近年のデジタル技術の恩恵もあって、自前で土器の展開写真を撮ることができるようになった事で、これによって、文様の複雑さを視覚的に伝えやすくなった。また、展示には、「遊び」も大事という考えから、土器破片を10点ほどセレクトし、薄布にカラー拓本して、実際の土器を重ねるパズルを作成してもらった。もちろん聖山遺跡の概要や聖山式と呼ばれる土器の課題点も提唱しつつ、



特別展「聖山」の展示風景

最新の研究成果も盛り込んだ。要は、一つの遺跡にかかわるいろいろを空間的にデザインすることを意識した。

とはいえ、来館者の反応をみていると、まだまだ改善すべき点があると感じている。数えきれないほ

ど手掛けても、「展示」をつくることの難しさは、等しく変わらないということだろう。

[七飯町歴史館 学芸員 山田 央]

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

令和7年度日胆地区博物館等連絡協議会研修会 開催報告

令和7年11月20～21日、北海道博物館協会学芸職員部会と合同で苫小牧市を会場に研修会を行いました。20日は「美術作品を介したコミュニケーション」と題した公立ほこだて未来大学准教授の平野智紀氏による基調講演と「美術作品の輸送と保険、著作権の取り扱い事例について」と題し、苫小牧市美術博物館の美術担当学芸員による研修会等を行いました。基調講演では、「対話型鑑賞」の実演を交えてご講演いただきました。ゴッホの「ひまわり」を題材に、「ひまわりは何本あるか。」や「あなたをひまわりに例えたらどのひまわりか。」など講師と参加者の美術作品を通じた対話から、多様な視点による気づきについて学ぶ機会になりました。また、美術担当学芸員による研修会では、著作権者との口頭や書面でのやり取りや評価額が高額な作品を借用(輸送)する際の注意点などについて、苫小牧市美術博物館での実例を交えた講話を行いました。さらに、企画展解説では、苫小牧の文化財と精巧な複製資料を並列で展示した意義やデジタル技術を活用した3D模型によるハンズオン展示などについての解説を行いました。美術作品を取り扱う機会の少ない参加者や文化財保護に対する関心の高い参加者にとっては、

とてもよい機会になったと思います。

21日は、遺跡探訪と自然巡りの2組に分かれてエクスカージョンを行いました。遺跡探訪では、国の指定史跡である静川遺跡や戦争遺跡(トーチカ)等を視察し、自然巡りでは、北海道大学苫小牧研究林にある国登録有形文化財の森林記念館やウトナイ湖野生鳥獣保護センターを視察しました。いずれのコースともに、駆け足での滞在でしたが、苫小牧市の歴史や自然に触れ、参加者はたくさんの知見が得られる機会になったと思います。



静川遺跡の視察風景

[苫小牧市美術博物館 主査 江崎 逸郎]

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

「ひとり学芸員」を支える宗谷の連携

北海道の最北に位置する宗谷地方は、稚内市を中心に10の市町から構成されています。令和8年1月現在、このうちの稚内市、礼文町、利尻町、利尻富士町、枝幸町に10名の学芸員が活動しています。この十数年の間に学芸員の複数配置が進みましたが、宗谷管内の市町では長く「ひとり学芸員」の時代が続きました。時おり舞い込んでくる専門外の問題や遺跡の発掘調査、補助事業の申請や重要文化財の指定・展示など、困難な場面に直面するたびにお

互いが助け合ってきました。

こうした取り組みは現在の私たちの先輩方の世代から引き継いだもので、すでに30年以上の積み重ねがあります。

現在では上川・留萌・宗谷の3管内による「道北地区博物館等連絡協議会」とは別に、「宗谷管内学芸職員連絡協議会」として活動を展開しています。

①「宗谷管内巡回展」の開催

宗谷管内の学芸員が中心となって毎年、宗谷地方に関する巡回展を開催しています。テーマは縄文、狛犬、鉄道、廃校、漂着物、コウモリ、樺太など様々。すでに17回を数えており、令和8年度の巡回展は

「宗谷のヒグマ」を予定しています。また、この展示は「学芸員のいない」5つの町村にも巡回することを心がけています。



宗谷管内巡回展「宗谷の漂着物」

②宗谷遺産アーカイブズ

北海道開発局稚内開発建設部と連携して、宗谷地方の文化財や自然遺産を「宗谷遺産」と位置づけ、カード型式で公開しています。現在 58 件を公開しており、毎年少しずつ増やしています。

③共同研究と研修会

年に2回のペースで宗谷の学芸員が集まり、文化財の巡検や研修会を行っています。令和7年度の研

修会では、東京大学の熊木俊朗先生をお招きして文化財の三次元計測の実習を行いました。

地方の小さなまちの学芸員は、専門分野に関する問題について、職場の同僚や上司に相談することが難しいこともあります。そんなときに力になるのが、「地域の学芸員の連携」です。私たち宗谷の学芸員は、これから宗谷に来る「未来の学芸員」のために、互いが助け合い、協力できる環境を伝えていきたいと考えています。



宗谷管内研修会「文化財の三次元計測」

[オホーツクミュージアムえさし

館長 高島 孝宗]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

トコロチャシ跡遺跡群の公開

トコロチャシ跡遺跡群は北見市にある国指定史跡「常呂遺跡」を構成する区域の1つで、とりわけオホーツク文化(8~9世紀頃)の集落とアイヌ文化期(18世紀頃)のチャシの遺跡の存在で知られてい



柵列が再現されたチャシ跡

ます。この地域に特徴的な古代文化の展開を今日に伝える遺跡であることから、令和3~6年度にかけて見学用施設や遊歩道を整備し、令和7年4月より一般公開を開始しました。

チャシはアイヌの砦と説明されることが多いですが、平時は儀式や集会の場として使われた施設で、壕と柵で囲われているのが一般的でした。整備工事では壕に沿って柵列を設け、当時のようすを再現し



オホーツク文化の竪穴住居再現展示

ています。また、オホーツク文化については、竪穴住居跡の1つに、当時の住居内のようなすを再現した施設を整備しました。屋根部分こそ復元ではないものの、住居跡の現地に実際の大きさを、立ち入り可能なオホーツク文化の住居を再現した初めての試みです。北方から移住してきた異民族であるオホーツク文化の人々の暮らしぶりを感じていただける

場所となっています。

トコロチャシ跡遺跡群は冬季は閉鎖しており、4月の雪解け後から11月末まで公開しています。公開期間中は入場自由ですので、ぜひお立ち寄りください。

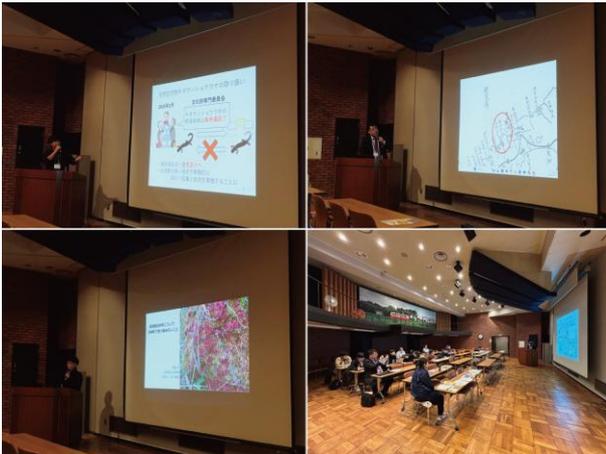
[とほろ遺跡の森 学芸員 中村 雄紀]

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

令和7年度交流推進会議を開催しました

令和7年11月26日・27日の2日間、交流推進会議を開催しました。今回はテーマを決めて講師を招く研修会ではなく、3管内の若手職員に最近の取り組みについて発表していただくことにし、3名の方に最近のトピックや着任前の研究を紹介していただきました。

発表後は参加者1人ずつに近況報告をしていただき、近隣館の取り組みや動向について知る機会になったかと思います。



1日目研究発表（釧路市立博物館）

2日目のエクスカージョンでは、釧路町の旧岩保木水門（土木遺産）、釧路町郷土資料館を見学したあと、標茶町博物館に伺いました。平成30年のリニューアルオープン後、道東3管内のイベントで訪れるタイミングがありませんでしたが、ようやく機会を持ってました。標茶町博物館の坪岡さんに解説をしていただきながら、展示をじっくり観ることができました。



標茶町博物館を見学

[釧路市立博物館 学芸員 加藤ゆき恵]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

動物園・水族館で進むアニマルウェルフェア向上への新たな取り組み

アニマルウェルフェア（動物福祉）とは、動物の身体的・心理的な状態のことを指します。その状態は、飼育環境や人との関わり方など、さまざまな要素によって左右されます。アニマルウェルフェアを向上させるためには、動物自らが環境や行動を適切に選択し、コントロールできることが重要な要素と

なります。

アニマルウェルフェアに配慮することは、現代の動物園・水族館に共通する重要な責務です。

こうした考え方を背景に、日本動物園水族館協会（JAZA）では、日本の実情に即したアニマルウェルフェア基準などの策定を進めてきました。私も長年、これらの策定チームの一員として、基準などの整備に加え、会員園館が基準に準拠しているかを評価する枠組みづくりにも携わってきました。

基準は、飼育しているすべての動物に対して、「栄養」「環境」「健康」「行動」「精神状態」の五つの観

点を踏まえた飼育管理および施設運営を行い、動物のウェルフェアの状態を適切に保つことを目的としています。具体的には、園館ごとにアニマルウェルフェアの取組方針をはじめ、感染症対策、展示計画、繁殖計画などを明文化することや、基準に沿った自己評価を行うことなどを求めています。

そして2025年(国内のWAZA加盟園館においては2023年)より、定められた基準に基づく客観的な評価を行うため、JAZAに認定された評価員による会員園館のアニマルウェルフェア評価が本格的に開始されました。評価では、適切な飼育環境や環境エンリッチメントの導入といった「インプット(動物に対して何を行ったか)」も確認しますが、より重視しているのは「アウトプット」です。インプット

の結果、その動物が身体的・心理的にどのような状態にあるのかが評価の中心となります。

私自身も評価員として全国の動物園・水族館の評価に携わり、各園館がまだ手探りながらも、前向きにアニマルウェルフェアの向上に向けた取り組みを実践していることを目の当たりにしています。もちろん当館も同様です。

この評価の枠組みを通じ、動物の状態を踏まえた改善を着実に積み重ねていくことが、動物がよりいきいきと生活できる環境づくりにつながり、ひいては業界全体で飼育動物のアニマルウェルフェア向上に資するものと考えています。

[登別マリンパークニクス 館長 吉中 敦史]

学芸職員部会 NEWS

「正解」から「対話」へ —対話的鑑賞法の実践

令和7年11月19日から21日にかけて、苫小牧市美術博物館において第49回北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会が開催された。

○対話的鑑賞法による新たな展示の可能性

20日に行われた研修会では、公立はこだて未来大学の平野智紀准教授を講師に迎え、「美術品(絵画)の取り扱いと活用」をテーマとした講演が行われた。平野氏は、美術品の価値は鑑賞者自身が見出すものであるという前提から、対話的鑑賞法の重要性を提示した。

講演では、モナリザの手の位置やゴッホのひまわりの本数など、具体的な事例を通じて、鑑賞者自身の気づきを引き出すことの重要性が示された。平野氏は「どうしてそのように感じましたか」という問いかけが鍵となり、鑑賞者の認識と意識を掘り下げていくことが重要だと強調した。

博物館資料を扱う際、学芸員は道具の使用年代や使われ方といった「正解」を提示することに傾きがちである。しかし平野氏は、資料に価値を見出すのは鑑賞者自身であり、鑑賞者がその資料のどこに注目したか、何を感じたかを鑑賞者とともに掘り下げる必要があると指摘した。正解の提示ではなく、資

料に対する関心と自分自身への意識をとにも深めることが、これからの博物館展示に求められている。

○施設見学とエクスカージョン

21日のエクスカージョンは、遺跡巡りコースと自然探訪コースに別れ、筆者は自然探訪コースに参加し、北海道大学苫小牧研究林とウトナイ湖野生鳥獣保護センターを視察した。

研究林では幌内川を利用した生態系研究や樹冠クレーンによる森林観察など、長期研究の取り組みを学んだ。ウトナイ湖では、縄文時代中期以降の海退期に形成された湖の成り立ちや、渡り鳥の宿营地として重要な役割について、江崎逸郎学芸員から解説を受けた。



[学芸職員部会事務局 石井 淳平]

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

第60回道科協職員研修会の開催報告

道科協の「職員研修会」は年に一度各加盟館が持ち回りで開催しているが、今回は全国理工系学芸員会議・札幌市青少年科学館・北海道青少年科学館連絡協議会の3つの団体で共催するという初めての形式で開催した。テーマは「科学館における資料の取扱い」。全国各地の学芸員による事例発表や講演と、当館の展示物に関するワークショップの二部構成で行われた。

科学系博物館にとって「資料」にはあまり馴染みがないが、事例発表ではサイエンスショーの動画や過去のプラネタリウムのシナリオ等を「資料」として登録している館の話があり、多くの館から参考にしたいという声があがっていた。

道科協からは、小樽市総合博物館の大鐘氏に「ローカルな科学博物館を目指して」というタイトルで講演をしていただいた。小樽市総合博物館には毎年多くの観光客が訪れるが、館を観光施設化していくのではなく、「博物館はその地域のためにある」という考え方のもと博物館としての活動＝資料の収集等を行う必要性についての話があった。どの地域にも記録すべき歴史があり、その地域

のことは博物館に聞けばわかると認識してもらえるような調査研究や資料の収集が大切であるとの話があり、大変好評であった。また、CISE ネットワークの菊田氏から図書館ネットワークを活用した地域教育に関する講演をしていただき、会場には実際に貸し出しているトランクキットを展示した。全国的にもめずらしい取り組みのようで、休憩時間にも活発に意見交換が行われていた。

ワークショップでは、札幌市青少年科学館の天文・地球科学エリアにある展示物「触れる地球」の入れ替えに関する提案をグループごとに検討・発表していただいた。巨大な球形スクリーンの展示効果や、地球そのものを見せるという魅力の高さについては各班から共通して発言があり、様々な施設の学芸員の共通意見を伺えたことは大変有益であった。研修終了後にも参加者から展示物のメンテナンスに関する情報等が寄せられるなど、現場で働く職員同士ならではのネットワークが生まれていた。

道科協の加盟館にとって全国各地で活躍する学芸員との交流は大変貴重な機会であり、大いに刺激をいただいた。また機会があれば他団体との共催による研修等を企画していきたい。

[札幌市青少年科学館 高橋 志織]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

『特需「後」の美術館運営
—開館33年目の神田日勝記念美術館
の立ち位置』

神田日勝記念美術館はその名の通り作家名を冠した美術館である。人口5千人弱の鹿追町が運営する公立館で、道立館や市立館と比べると予算・運営体制ともに小規模ながら趣向を凝らした運営をおこなっている。

令和以降の当館は、神田日勝をモチーフとする人物が登場するTVドラマのヒットによりファンが大挙して訪れたことが大きなトピックスとして挙げられる。年間4万人という来館者数は平常時の5.7倍、演じた俳優のファンである若い女性やドラマのコアファン層の中老年など、普段とは異なる層が多く来館したことが特徴だ。無論それが唯一の評価軸ではないが、来館者増は小さな町の美術館にとって嬉しい悲鳴となった。

しかし特需とは得てして一過性、直近3年の来館者数は特需前の値に落ち着いた。今後は特需に依



令和7年度のクスミエリカ氏とのコラボレーション展示

拠しない運営が求められよう。俳優のファンではなく美術館のファンを増やす、そのためには『自館のコレクションをどう生かすか』に尽きるのではないだろうか。

当館では現在、二本の柱からなる展覧会を開催している。一つは館蔵品交換を通して他館のコレクションを自館のそれと同時に並べることで見方を相対化する試みで、釧路市立美術館、小川原脩記念美術館などおこなってきた。他館とは近隣の公共施設およびそこに眠る絵画に光を当てることも含まれ、十勝の公共施設から絵画を集めた展示

もおこなった。

もう一つは、神田日勝と現役の美術作家とのコラボレーション企画である。作家による新たな日勝解釈をコンセプトに導入し、作品同士の相互作用を通じて作品世界の解釈を豊かにする試みで、単なる貸館ではなく、当館で開催することの意義

を持たせている。

当館は令和8年度の大規模修繕を経て、令和9年度の開館を予定している。コレクションをどう生かしていけるのか、引き続き考えていきたい。

[神田日勝記念美術館 学芸員 杉本 圭吾]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2026年4月～2026年9月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
4/26	野外講座「石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物」
4/29～6/28	テーマ展「石狩油田のサイエンス」
8月	体験講座「海辺の標本箱をつくる」
9月	トークイベント「ウミベオロジー／石狩海辺学 2026」
9月～11月	テーマ展「紅葉山 33 遺跡の石器 (仮)」

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
4/4	北海道の稲わらでわら馬を作ってみよう
4/11	エゾアカガエルのラブコールを聴こう！
4/18～6/14	第27回企画テーマ展「全国樺太連盟資料展」
4/25	民俗学者・宮本常一、昭和20年の北海道を歩く
5/2	先祖を通してみる樺太・戦後北海道
5/17	引揚者文化とは何かー食文化から企業家精神まで
6/13	博多から北海道へー芦別健夏山笠の落語とおはなしー
6/14	石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！（同日2回開催）
7/11～9/6	第12回特別展/令和8（2026）年アイヌ工芸品展 沙流川に生きるーサルンクルの近代
7/11	「アイヌ工芸品展」の未来
8/15	トノサマバッタとオオカマキリをさがそう!!
9/5	職業としての学芸員ーお仕事選びに役に立つかもしれないハナシー
9/12	土偶をつくろう（同日2回開催）
9/20	アイヌ語講座～ききおこしのキ～
9/26	松前藩がねらった北の富ー軽物の来た道をたどるー
4/25・5/16・6/6・6/27・ 7/18・8/8・8/29・9/19	ちゃれんが古文書クラブ（全12回）
5/9・5/23・6/6・6/20	アイヌ語講座～きほんのキ～

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
6/20・6/21	アースデイ in 円山動物園

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/1～2027/3/31	常設展「北海道の文学」
4/15～6/24	常設展「文学館アーカイブ 武林無想庵」
4/18～6/13	ファミリー文学館「おいしい！美味しい！文学Ⅱ」
7/4～9/6	常設展「文学館アーカイブ 芥川龍之介の北海道講演旅行」
7/4～9/6	特別展「堀内誠一 子どもの世界」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日手作りコーナーこいのぼりをつくろう！」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日スペシャル 人形劇」
7/5	わくわく～こどもランド「絵本の読み聞かせ」ほか
7/26	わくわく～こどもランド「手作り教室・箱の中に夏をつくろう！」
8/5	わくわく～こどもランド「手作り教室・紙芝居をつくろう！」
8/2	わくわく～こどもランド「夏休みスペシャル」
6/21	映像作品鑑賞「赤い蕾と白い花」
8/30	映像作品鑑賞「絶唱」
5/14・6/11・7/9・8/13・ 9/10・11/12・12/10・ 2027/1/14・2/11・3/11	月例朗読会「北の響～名作を声にのせて」
6月・9月・10月	ぶらり文学散歩
7/1～9/10(募集期間)	第21回北海道小・中・高生短歌コンテスト
7月下旬～8月上旬	夏休み文学道場「中・高生のための創作講座」

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

期間	タイトル
4/25～6/21	ポケモン×工芸展 美とわざの大発見

札幌オリンピックミュージアム (011-630-2000)

期間	タイトル
5/5	バイアスロン体験イベント
5/6	バックヤードツアー
6/20	オリンピックデーイベント
未定(8月)	夏休みワークショップ

空知

情報なし

後志

おたる水族館 (0134-33-1400)

期間	タイトル
3/14～11/23	2026年度特別展示 この特別展にはホネがある ～骨から見た動物たちの不思議～

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)

期間	タイトル
通年	ロビー展「函館博物館史」
～6/28	収蔵資料展「はこだての歩み」
～6/28	収蔵資料展「酒は飲んでも飲まれるな -懐かしのお酒ディスプレイ-」
～6/28	収蔵資料展「箱館戦争」
～6/28	ひとつぼミュージアム「サムライ絵師、江戸を描く！江戸風俗十二ヶ月揃」
4/25～6/28	ミニ企画展「昭和12年 函館にヘレン・ケラーがやってきた！」
7/7～11/3	企画展「いざ、お話の世界へ！梁川剛一没後40年展」
7/19	展示解説セミナー 企画展「いざ、お話の世界へ！梁川剛一没後40年展」
7/25	夏休み自由研究「手作り天体望遠鏡で月を見よう」
7/29	夏休み自由研究「黒曜石で石器をつくろう」
8/9	夏休み自由研究「身近なもので染めてみよう」
8/16	夏休み自由研究「和綴じ本をつくろう」
9/12	展示解説セミナー「博物館まるごと解説」

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2033)

期間	タイトル
5/3～5/5	縄文しおりづくり
6/21・6/28	縄文時代の漁労を学ぶ(全2回) ①鹿角釣り針づくり、②海釣り体験
8/2	縄文時代の住居を学ぶ「竪穴住居ジオラマづくり」

八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館 (0137-63-3133)

期間	タイトル
未定(6月頃)	化石採集体験学習(対象:八雲町内の小学生)

檜山

ピリカ旧石器文化館 (0137-83-2477)

期間	タイトル
4/25～11/29	令和8年度企画展「レトロマシンの世界(仮)」
5/4・5/5・5/6	石器づくり講座(スクレイパーづくり、彫器づくり、矢じりづくり)

8/13・8/14・8/15	石器づくり講座 (スクレイパーづくり、彫器づくり、矢じりづくり)
9/21・9/22・9/23	石器づくり講座 (スクレイパーづくり、彫器づくり、矢じりづくり)

胆振

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

期間	タイトル
4/19	とんてん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会
5/5	民俗資料館フェスティバル

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
4/18～6/21	企画展「石川直樹「はじまりの火山」
4/18～6/21	特集展示「はっけん！樽前山～登山道で出会う自然～」
7/11～8/30	企画展「縄文SF (すこし・ふしぎ)」
7/11～8/30	収蔵品展「都市と幻想」
9/19～11/23	特別展「棟方志功の美の神髄～北方へのまなざし」

苫小牧市科学センター (0144-33-9158)

期間	タイトル
4/9	天文台で木星を見よう
4/25～5/6	木の人形展「五月人形の展示」
5/15	天文台で少し欠けた金星を見よう
7/24～8/23	巡回展「こども宇宙科学」
8/13	夏の星とペルセウス座流星群を見よう
9/11	天文台で欠けた金星を見よう
9/25	天文台で中秋の名月の観望と撮影会

日高

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

期間	タイトル
4/28～6/7	"萱野茂生誕 100 年記念事業"

アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)

期間	タイトル
4/25	バスツアー「春のアポイ岳ジオパークと桜と馬を巡ろう」
4/29, 5/2～5/6	ゴールデンウィーク工作イベント
6/13	電動アシスト付きマウンテンバイクでアポイ岳ジオパークを巡ろう
7月～9月 (予定)	企画展「ユネスコ世界ジオパーク写真展」
7/18～7/20	写真展解説イベント

8/8～8/16	夏の工作イベント
9/19～9/23	秋の工作イベント

上川

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
4～5月	季節の行事展 (端午の節句)
4月下旬～5月上旬	大型連休企画
4～6月	企画展「はじめての野鳥観察」
5月	講座「春の自然観察会 (野鳥)」
7月	講座「夏の自然観察会」
7月	講座「考古学体験」
7～9月	講座「古文書教室」
8月	講座「博物館資料調査隊」
9月	講座「地質めぐり」
8～9月	企画展「士別の文化財」
9～10月	講座「士別歴史探訪」

宗谷

情報なし

オホーツク

北海道立オホーツク流水科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
4/18～5/31	企画展「蜃気楼を知ってるかい？」(仮)
5/2～5/6	ゴールデンウィークイベント
7/19	第13回紋別わくわく科学教室
8/1～9/30	特別展「骨格標本展」(仮)
8/11～8/15	夏休みイベント ギザ祭り
10/3	ビーチコーミング
4～9月	毎月2回「今月のプラネタリウム」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
3/21～10/25	特別展「生き物たちの地球」
5/5	こどもの日記念行事

北見市ところ遺跡の森 (0152-54-3393)

期間	タイトル
8/29	遺跡見学会

博物館網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
5/1～9/26	企画展「刑務所の入所と出所」
5/3・5/4	ゴールデンウィークイベント
5/6	二見桜並木観桜会
6/13	体験講座 布花づくり
6/14	農園体験ワークショップ ①畑作り・種まき
7/5	開館記念イベント
7/12	農園体験ワークショップ ②除草・間引き
8/7	年中行事イベント 七夕
8/8	体験講座 オープン粘土でニポポづくり
8/9	農園体験ワークショップ ③除草・土寄せ
9/6	農園体験ワークショップ ④除草・土寄せ
9/20・9/21	二見湖畔神社収穫祭
9/25	年中行事イベント 十五夜

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

期間	タイトル
4/18～5/6	企画展「日記と家計簿からみる昭和の十勝」
4/11～5/6	ロビー展「五月人形展」
4/25	博物館講座「史料からみる依田勉三・晩成社」
5/3	自然観察会「アイヌ語で自然かんさつ」
5/16	友の会講演 「海をのぞんだ縄文人たち 縄文時代の終わり頃に釧路の海で何があったのか？」
5/24・6/7・6/21・7/5	連続講座「十勝の古文書を読む」
7/18～8/2	ロビー展「十勝の写真 人の今むかし」
8/1～9/23	特別企画展「十勝・帯広 くらしと食べものの時空間」
9/5・9/6	「古文書教室」

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

期間	タイトル
4/11～5/6	アメリカ版画展
4/19	ギャラリー・ツアー「アメリカ版画展」
5/3	特別展セミナー「楽しいアメリカ版画」
5/16～6/14	とがちのいきもの展

7/11～9/6	チームラボ☆学ぶ！未来の遊園地 帯広
9/19～11/23	さくらももこ展

ひがし大雪自然館 (01564-4-2323)

期間	タイトル
4～10月	夏鳥展
4～5月	自然観察会 1
5～6月	自然館講座 1
5～6月	自然観察会 2
6～7月	自然館講座 2
6～7月	自然観察会 3
7～8月	自然館講座 3
7～8月	むしむし WEEK2026 (仮題)
8～9月	自然観察会 4
9～10月	自然館講座 4

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
5月頃 (予定)	アート・キッズ・クラブ 2026 (第1回) 【小学生対象】
7～8月頃 (予定)	アート・キッズ・クラブ 2026 (第2回) 【小学生対象】
8/23 (予定)	第34回馬耕忌

釧路

釧路市立博物館 (0154-41-5809)

期間	タイトル
2/21～4/19	企画展「人と植物」
4/4	企画展「人と植物」関連講演会
4/18・4/19	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/19・5/17・6/21・ 7/19・8/16・9/20	春採湖畔探鳥会
4/25～7/5	企画展「みんなで調べた春採湖畔の植物」(仮)
5/2 (予定)	竪穴住居で屋根ふき体験
5/3～5/5 (予定)	博物館で遊ぼう
5/16・6/20・7/18・ 8/15・9/19	春採湖畔草花ウォッチング
5月下旬	初夏の探鳥会
6月上旬・8月下旬	歴史探訪会「まちなみ散歩」
6/6・8/8・9/12	しらべてみよう春採湖の昆虫
6月	アイヌの木彫体験講座
7/11	春採湖汽水のいきもの観察会
7/11～10月 (予定)	博物館創立90周年記念企画展「文化の芽吹き」(仮)

7月中旬	博物館創立90周年記念イベント(予定)
7月下旬	みんなの社会科見学「新富士駅・釧路貨物駅探検隊」
9月下旬(予定)	博物館まつり

釧路市こども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
3/25～4/7	春休みイベント2026「モノも！ヒトも！遊んでつながる みんなのリンクタウン」
4/29～5/6	GW イベント2026
7月下旬～8月下旬	夏休みイベント2026
9月上旬～9月下旬	宇宙月間

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/25～6/28	帯広美術館×釧路芸術館 う・つ・すー版と写真の挑戦
4/25	アートシネマ館
4/29・5/9	ギャラリーツアー
5/23	版画ワークショップ
5/30	アートシネマ館
6/6	美術講座
6/20	写真クラブ ワークショップ
6/26	トワイライト・ギャラリーツアー
6/27	アートシネマ館
7/11～9/13	"笠間日動美術館コレクションの至宝
7/25	アートシネマ館
7/25・9/22	ギャラリーツアー
7/31	トワイライト・ギャラリーツアー
7/25～8/23	夏のキッズアトリエ
7月末, 8月上旬	夏のワークショップ
8/2	プレミアムトーク
8/8	芸術館 夏まつり (パフォーミングシアター含む)
8/15	アートシネマ館
8/23	美術講座
8/29	写真クラブ ワークショップ
9/5	アートシネマ館
9/12	芸術館 秋まつり (パフォーミングシアター含む)

根室

情報なし

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 荒川裕生(アラカワ ヒロキ)】
【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2026 年度の北海道博物館協会総会・北海道博物館大会について

既に WEB サイトとメーリングリストにて会員の皆様にお知らせしておりますとおり、2026 年度の総会と大会を別日程で開催いたします。

- ・北海道博物館協会総会は、2026 年 6 月上旬に対面、オンライン、および書面を併用する形で開催予定です。
- ・第 64 回北海道博物館大会は、2026 年 9 月 30 日（水）・10 月 1 日（木）に釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞で開催予定です。

■今後の道博協ニュースの発行について

第 136 号以降、物価高騰対策および資源有効活用のため、「紙媒体は不要」とご回答いただいた会員の皆様には発送を控えさせて頂いております（必要と回答された方、アンケートへ未回答の方にはこれまでどおり紙媒体のニュースもお届けいたします）。なお、pdf 版の道博協ニュースは今後も引き続き当協会 web サイトへ掲載を続けます。今後も電子版の道博協ニュースを是非ご利用下さい。

（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <https://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 138 号
発行日 2026 年 3 月 31 日
発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局
〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内
電話：011-898-0456
メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com